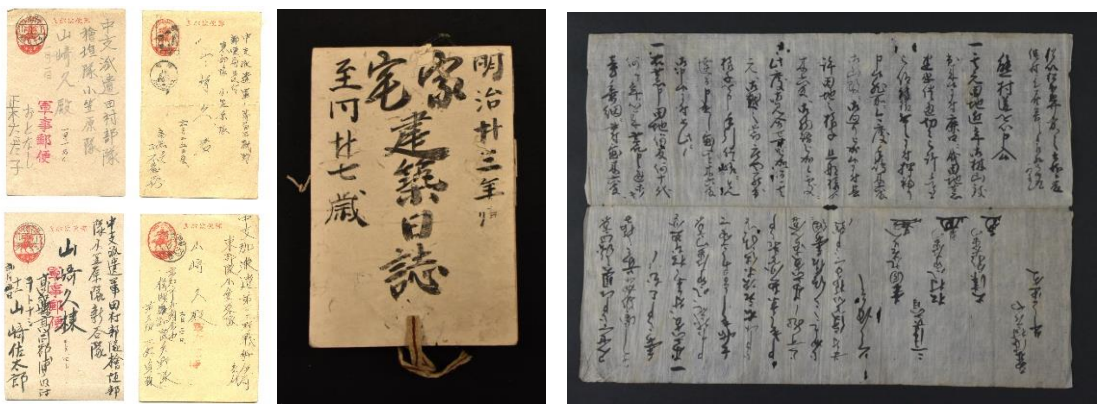
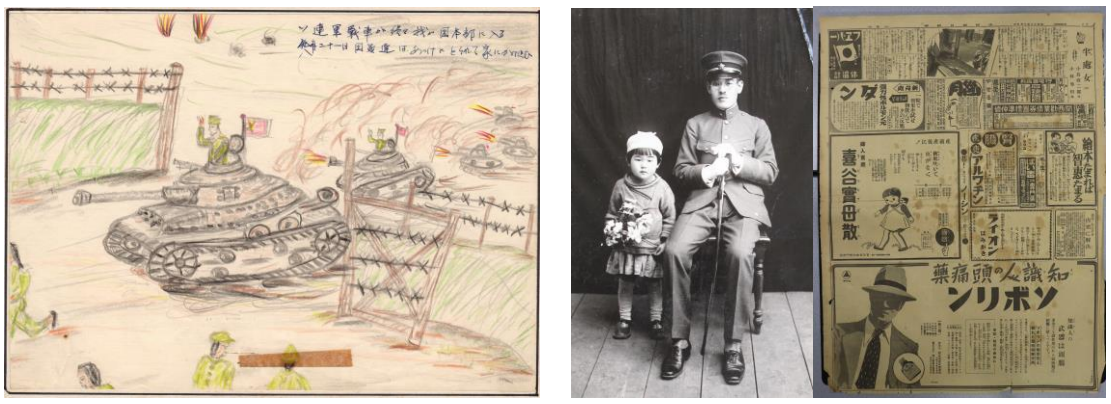
高知の歴史資料を残す・伝える

－紙資料保存の手引き－





高知戦争資料保存ネットワーク編

目次

まえがき……2
１、歴史資料を残し、伝えるとは？……3
２、資料保存の基本……4
コラム１　高知戦争資料保存ネットワークとは……6
コラム２　戦地から土佐への手紙……7
３、資料保存の実践……８
コラム３　役場文書と忠霊塔……13
コラム４　書籍史料の重要性……14
コラム５　雑誌類の整理……15
コラム６　写真帳の整理……16
４、歴史資料の整理……17
（１）資料目録の作成……17
（２）写真の撮影……18
（３）資料のクリーニング……19
（４）虫害を防ぐ方法……21
コラム７　土佐国の浦に伝わる近世文書の整理……22
コラム８　かけがえのない資料……22
コラム９　満州の資料収集に関わって……23
コラム 10　展示による資料の活用……24
５、まとめ……25

まえがき

日本が近代化の道を歩み始めるきっかけとなった明治維新から１５０年が経過しました。政治や経済、暮らしなどさまざまなものが大きく変化し、人々は大きな戦争も経験しました。この間に作成された家庭に残る日記や手紙、写真などが近年、遺族だけでは保管が困難となり、家の代替わりや遺族の死去などで廃棄される事例が発生しています。高知県内では、行政や博物館などの明治以降の歴史資料の受け入れ体制が十分でなく、その整備を待っていては多くの資料が散逸してしまう現状にあります。

資料には数十年、数百年を経過して劣化が進んで、紙がちぎれたり、文字が読めなくなったりしているものも少なくありません。ご家庭にある資料の記録や保管方法が分からずに困っている方や、「もう古くなったから捨ててしまおう」と廃棄を考えている方もいるのではないでしょうか。

ご家庭の歴史資料の記録に関わる「高知戦争資料保存ネットワーク」のメンバーにもこうした方がおり、２０１６年５月の定例会で、「戦争資料の保存と取り扱いー西土佐満州開拓団資料を事例にー」と題して高知県立高知城歴史博物館の田井東浩平主任学芸員（資料保存）にご講演いただきました＝写真。

小冊子「高知の歴史資料を残す・伝える」では、田井東学芸員の講演をもとにしながら、ご家庭にある手紙や写真などの紙資料の整理・保存の方法について、歴史学と保存科学の観点から分かりやすく解説しました。また、保存ネットワークが調査してきた県内の地域や家庭に残るさまざまな歴史資料についてもコラム形式で紹介します。

家族や地域に伝わってきた歴史資料は、村や町など地域の生活や出来事を記録した貴重な地域資料です。これらを地域で残し、伝えるためには専門知識も必要です。本冊子が、その一助となれば幸いです。

高知戦争資料保存ネットワーク事務局

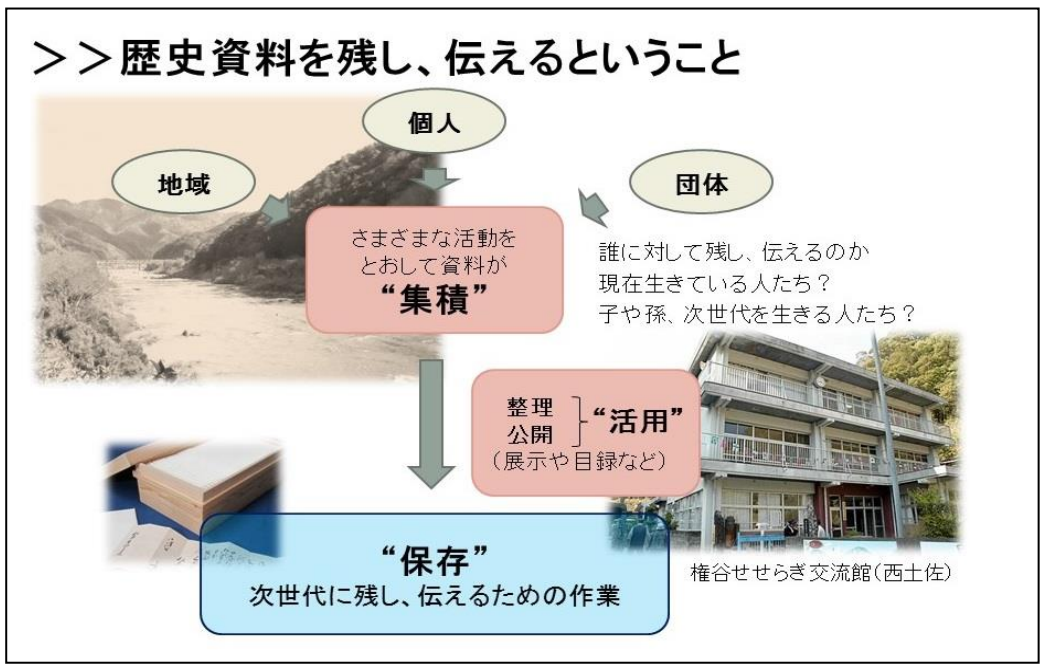
１、歴史資料を残す・伝えるとは？

地域の歴史資料には、過去の歴史の中で残ってきた文献資料や考古資料、民俗資料などがあります。中でも古文書等の紙に書かれた文献資料や紙に印刷された写真は、家庭や地域、団体などがさまざま活動を通して「収集」「集積」してきたものです。

これらを現代の私たちが残し、伝える場合、まず資料を整理して歴史的な価値を理解し、何らかの形で歴史資料として公開することを前提とします。その際、子や孫ら保管者の家族に見てもらいたいのか、現在の地域の人に見てもらいたいのか、次世代を生きる人に見てもらいたいかなど、「誰に対して資料を伝えるのか」によって「記録」や「活用」の方法が変わってきます。それによって、資料に関する詳細な記録（資料目録）を作るのか、資料館・公民館などの展示施設で資料を見てもらうのかなど、整理や公開の方法も考えなればいけません。

資料を廃棄せずに残し、次世代に伝える作業が「保存」です。資料を保管するだけでなく、次世代の人たちが資料を理解できるように資料を「記録」（整理）し、「活用」することも見据えて作業を行わなければいけません。

また、和紙や洋紙を使った紙資料は、光の影響や虫害などで劣化していきます。そのため、専門的な知識をもとに資料を良い状態に保ち、管理していく作業も必要になります。



２、資料保存の基本

洋紙の普及

江戸時代以前の日本では、コウゾやガンピなど主に植物の繊維を使った手漉きの和紙が使われました。明治期以後、社会の欧風化が進む中で、金属ペンとインクで書く筆記性の良いインク止め紙やミツマタを原料とした局紙などが製造されるようになり、機械漉きの洋紙が導入・普及。木材パルプを原材料とした洋紙の大量生産も行われるようになりました。

明治以降の近現代資料に使われる紙の多くは洋紙で、特に家庭で使われた資料や戦時期の資料は、安価な洋紙に安価なインク、鉛筆を使って書かれています。洋紙は和紙に比べて劣化も早いため、良い状態が保てるのは長くても 100 年ほどです。そのため、紙資料の取り扱いや保管には注意が必要です。

なぜ紙が劣化する？

紙資料が傷む原因は大まか３つで、光や温度、湿度、空気など資料を取り巻く環境で発生する「化学的要因」、カビや虫、ネズミが紙に被害を与えることで発生する「生物的要因」、人間による資料の取り扱いで発生する「物理的要因」があります。ほかにも、水害など自然災害によって資料が破損するケースもあります。

光で退色した明治期の新聞紙

化学的要因　「光」による劣化は、紙を構成する主成分セルロース（繊維素）が、強い太陽光の紫外線エネルギーを吸収して変化・崩壊することで起きます。紙の変色・退色（紙焼け）も光の影響で発生します。特に、新聞紙は、機械パルプの主成分となるリグニン（木質素）が光に対して敏感なため、日光があたり続けると急速に退色してしまうのです。

紙の劣化には「温度」「湿度」も大きく関わっています。資料の保管環境の温度が上昇・下降することで湿度変化が繰り返されると、紙の水分が徐々に失われ、しなやかさが失われ、最終的にボロボロに劣化してしまいます。

太陽光や照明の赤外線による温度上昇で、紙の「酸化」も進みます。「酸化」とは、有機物質のセルロースが、空気中の酸素と徐々に結合して変質・分解を起こす現象です。セルロースが酸化すると繊維の強度が弱くなり、紙が劣化します。

また、洋紙の製造にはインクのにじみ止めにロジン（松ヤニ）という物質が使われ、その定着のため硫酸アルミニウムが使用されています。この硫酸アルミニウムが、紙に含まれる水分と反応して硫酸を生成し、紙を内部から崩壊させます（酸加水分解）。硫酸には強い脱水作用があり、水分が少なくなることで紙の繊維が硬くなり、紙がもろくなります。

明治期の絵画に被害を及ぼしたゴキブリ

生物的要因　微生物による紙の劣化は、主にカビが引き起こします。多湿で換気の悪い場所に資料が置かれると、カビが発生することがあります。カビの胞子は紙やのり、にかわを養分に繁殖し、紙の表面を汚します。カビの中には、紙の繊維を分解し養分とするものもあり、紙の強度の劣化を招きます。

カビが発生すると、それを餌に虫が資料に寄ってきやすくなります。和紙と比べ比較的に虫の被害を受けにくい洋紙ですが、それでもヤマトシミやシバンムシ、ゴキブリの被害を受けます。シバンムシは書籍を好み、内部を貫通するトンネル状の食痕が生じます。集団で生活するゴキブリは食害のほか、糞による紙の汚染を引き起こします。

旧山内家宝物資料館収蔵庫に設置された除湿器や空気清浄機、粘着マットなど

保管環境の管理が重要

上記のような紙の劣化を防ぐためには、まず資料を保管する環境を整えることが重要です。県内の博物館の収蔵庫は、適切な「温度」「湿度」を空調設備のほか、除湿器や加湿器で維持し、紫外線を抑制した照明器具によって「光」を管理し、空気清浄機で「空気汚染」を防ぎ、粘着マットや密閉性の高い扉などで生物の侵入を防いでいます。

また、歴史資料には材質に応じて保存に適した温湿度環境があります（表１）。紙資料では、カビや酸化などによる劣化を防ぐため、温度は約 20℃前後、湿度は 50～65％が最適とされています。

このような収蔵施設や温湿度など充実した保存環境を家庭や地域で用意することは難しいですが、博物館などで行っている専門的な資料保存のノウハウを参考に、皆さんのご家庭や地域でも長く資料を保存していくためにできることがありますので次章で見ていきましょう。

表１　材質に応じた温湿度条件

（ｉ）温度	約20℃（人間にとって快適な温度）		
	フィルムについては、黒白フィルム15℃、カラーフィルム2℃（ISO規格）		
（ii）湿度（相対湿度）	高湿度	100%	出土遺物（保存処置前のもの）　防黴処置が必要
	中湿度	55-65%	紙・木・染織品・漆
		50-65%	象牙・皮・羊皮紙・自然史関係の資料
		55-55%	油絵
		40-55%	化石
	低湿度	45%以下	金属・石・陶磁器 塩分を含んだ物は先に脱塩処置が必要
		30%	写真フィルム

※　総合的にみて相対湿度は50%～65%が理想

コラム１　高知戦争資料保存ネットワークとは

保存ネットワークは、高知県の人たちが関わった日清戦争以後の戦争に関する資料を１点でも後世に残そうと、写真や目録による資料の記録作業を行う民間団体です。地域や家庭における資料の散逸を危惧した有志（県内で戦争体験の聞き取りや記録に関わってきた元教員や文化財関係者ら）が、２０１６年５月に高知市で結成しました。ネットワークは民間有志の集まりで資料の収蔵施設を持ちません。資料の受け入れ（寄贈寄託）は行っていませんが、文書や日記、手紙、写真などの紙資料に限定して整理を行うことで支援しています。

主な活動は、毎月第２火曜日１０－１３時に、高知市の高知市民活動サポートセンター(高知市役所鷹匠庁舎２階)で開いている定例会です＝写真。地域や家庭に残る歴史資料を持ち込み、資料の保管者やネットワークメンバーが、近世史や近代史の専門家の指導のもと、資料の伝来経緯や保管者の情報などを記した資料目録を作成し、資料の写真を撮影する作業を行っています。公開可能な資料の目録・写真は今後、高知県立図書館などで閲覧できるようにしていきます。

資料の情報をお持ちの方、家庭や地域の歴史資料の記録保存に関心のある方は、一度ネットワーク定例会にご参加ください。定例会などに関する情報は、ネットワークのフェイスブックページ（https://www.facebook.com/groups/404644176658001/）を参照ください。

コラム２　戦地から土佐への手紙

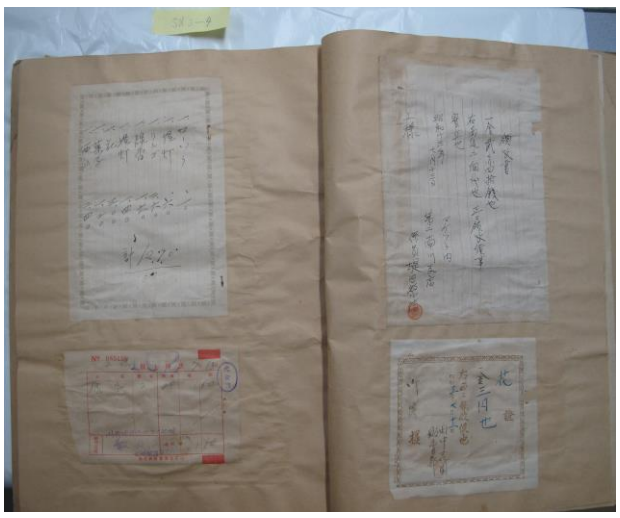
「父ハ非ズ、草葉ノ陰デオ前達ノ成功ヲ見守リ祈ツテ居ル」「産後の身決して無理をするなよ」―。２００９年に出版された『戦地から土佐への手紙』に収録された手紙の一節です。同書は、県内の戦没者遺族ら１１０人から集めた兵士の手紙１７７通を収録しています＝写真。

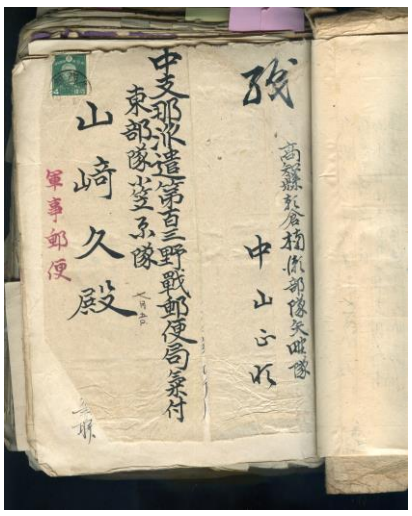
第２次世界大戦中、県出身兵士が家族や友人に宛てた「戦地から土佐への手紙」は、皆さんの家庭にも保管されている身近な戦争資料ではないでしょうか。

ハガキや封書の表には、検閲済の印が押されています。これは軍事郵便と呼ばれ、軍隊や省庁が非常時に用いる郵便制度を利用したものです。軍事郵便には、軍に不都合な情報や機密情報などを検査し、必要に応じて添削し、黒塗りなどを強制する検閲作業がありました。

しかし、検閲をくぐり抜けて凄惨な戦場の光景が描かれている手紙も多く、戦争の実情を知る貴重な資料となっています。また、軍事郵便は戦場の兵士と内地の家族をつなぐ唯一の手段であり、戦場で戦う兵士の不安な心情や家族への思いも吐露されています。日常的な描写と非日常の描写が併せて読み取れ、兵士が接していた空間の一端を伝える歴史資料としても評価されています。

（楠瀬慶太）





３、資料保存の実践～満州開拓資料を例に

家庭や地域にある歴史資料をどのように保存していけば、劣化を防げるのか。資料保存の実践について、高知県中西部に残る満州開拓団に関わる資料を事例に見ていきましょう。

（４）1941 年、満州に入植した江川崎開拓団の写真

満州開拓団とは？　満州開拓団は１９３２年、中国東北部に成立した満州国へ日本政府の国策で送り込まれた農業移民です。昭和恐慌で疲弊した農村を中心に全国約３２万人が移り住みましたが、戦後の混乱で約８万人が犠牲となり、中国残留孤児も生み出しました。

高知県では１９３４年に開拓団の募集が始まり、１９４０年以降に移住が本格化。入植者の割り当てもあり、村を割る形で半ば強制的に移住する「分村」もありました。最終的には３８の開拓団・分団の９１５１人が入植し、敗戦後の混乱で２千人以上が亡くなりました。送出人口は当時の県人口の１．４％に達し、道府県別では３番目に多い割合で、本県にとって満州開拓団は戦争を考える上で重要なテーマになっています。

今回、資料保存の事例として主に紹介するのは、高知県中西部の旧江川崎村（現四万十市）と旧十川村（現四万十町）から満州へ渡った開拓団の資料で、現在、役所や学校跡、個人宅などに保管されています。このような戦争関連の資料の種類や特徴、保存状態、保存方法などを以下で解説します。

様々な素材・形態の近現代資料

戦争資料を含む近現代資料には、様々な素材、形態のものがあります。満州開拓団資料にも（１）部落の議事録・名簿・報告書（２）県、村などとのやりとりの中で作成された公文書（３）個人の日記、手紙、ハガキ（４）当時の様子を伝える写真（５）戦争や引き揚げの様子を記録した水彩画・スケッチ等です。また、戦争体験者への聞き取りの録音テープ・ビデオなども戦争資料に含まれます。

（１）満州開拓の記述がある川口部落会（旧十川村）の議事録や名簿

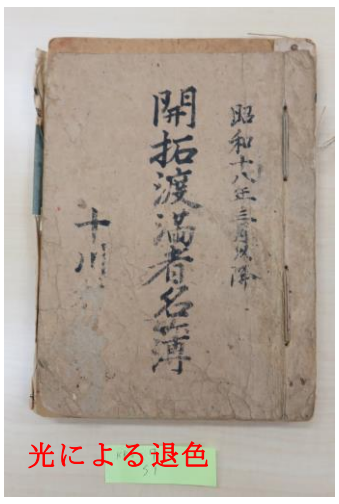
（２）江川崎村の満州開拓に関する村役場の公文書類

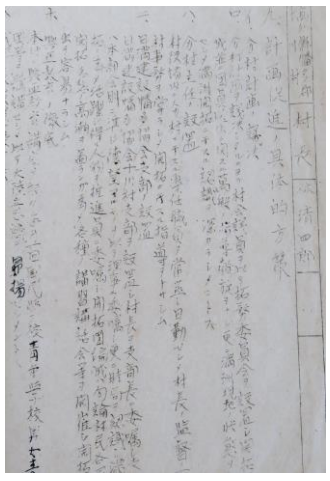
（５）十川村の元開拓団員が戦後に描いた水彩画

個別資料に見る保存方法と注意点

（１）簿冊（ぼさつ）　紙をひもなどで冊子の形にとじた「簿冊」形式の文書についてまず見ていきましょう。写真を見ると、簿冊の各所に光による退色や紙の劣化が確認できます。これらは、洋紙によく見られる酸性紙の劣化で、今後さらに進行して紙がボロボロになることが予想されます。

インクの退色や文字部分が抜け落ちるインク焼けも確認できます。これは鉄分を含んだインクが酸化することで起きる劣化です。黒インクは大正～昭和初期の資料全般で退色が見られ、青インクや赤インクでは退色の他、にじみも見られます。簿冊形式の紙資料は湿気を含みやすく、高温多湿の環境で退色やインク焼けはより進行すると言われています。





具体的な対策方法

これらの劣化への対策として、特殊なアルカリ性薬剤（脱酸スプレー）を噴

霧して資料の酸性化を中和させる「脱酸処理」がありますが、ある程度の専門知識が必要で、家庭で行うのは難しい方法です。

これ以上の紙資料の劣化を予防する方法として、中性紙の保存箱・封筒に入れ、外気や光から遮断して保管する方法があります。保存箱や封筒は、包材に弱アルカリ性紙あるいは中性紙を使用しており、外の環境との緩衝剤になります。保存箱や封筒は少し値がはりますが、誰でも対策可能な方法としてオススメです。木箱に入れて光や外気を遮断する方法もあります。

また、湿気がたまりやすいクリアファイルや酸性紙が使用された茶封筒などに保管することは、劣化防止の効果が弱く、あまりオススメできません。

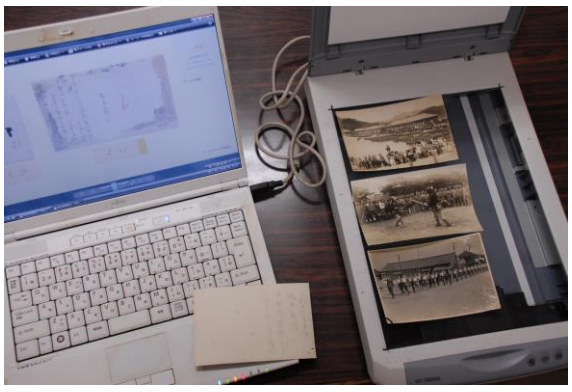
（２）写真　写真は地域の当時の生活や風景、状況を知る貴重な資料です。文字資料や絵画では分からない情報が多数含まれており、過去の社会を知る貴重な歴史資料です。しかし、紙に印刷された写真は、化学的に合成された物質に支えられた画像資料です。そのため、耐久性は歴史資料の中でも特に脆弱で劣化速度が速いと言われています。

写真に見られる劣化として、汚れやシミ、変色、退色、無光沢化、カビ、破れ・こすれなどの紙の劣化、プリント同士の接着などが上げられます。これらの劣化によって画像が見えなくなり、歴史資料として活用するのが難しくなります。戦後７０年以上が経過しているためすでに劣化は始まっていますが、さらに劣化する前に現状を画像データとして残していくことが必要です。

具体的な対策方法

写真は修復などの処置を行うのが難しい歴史資料です。保存する場合、劣化の進行を止める処理が求められます。写真を単独で保存しておくと湾曲（カール）が発生します。台紙やアルバムに紙などで四隅に角（コーナー）を作って写真を貼り付けて保存する方法があります。接着をする場合は、デンプンのりを使用してください。この際、写真の説明文を書いて整理することも重要です。

また、中性紙の封筒の中に入れて保管する方法も、光や酸化による紙の劣化を防ぐのに効果的です。写真同士は重ねると接着する場合があるため、薄用紙などを間に挟んで保管してください。



写真資料のデータ化

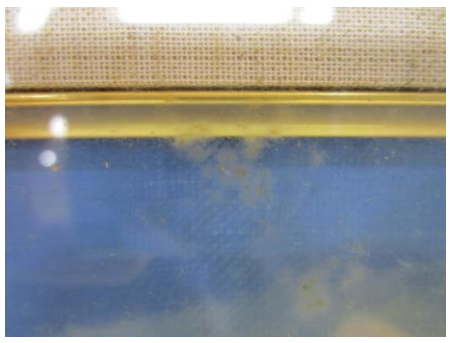
現状の写真を画像データとして残すことは、家庭や地域、戦争の歴史を後世に伝える重要な作業です。スキャナーに写真を置いて、画像をパソコンに取り込んで（スキャンして）、画像データとして保管します。写真の裏に注記などが書かれている場合は、裏面もスキャンしてください。

写真がアルバムなどに接着されている場合は、デジタルカメラなどで写真を撮って画像データとして保管してください（写真の撮り方は、１８ページの「写真の撮影」を参照）。

時間があれば、画像データに（後世の人が、写真が撮られた場所や写っている人物が分かるように）表題や説明を付けることもオススメします。

（３）油絵・水彩画　紙に書かれた絵画も、写真と同じく歴史事象を視覚的に知ることのできる歴史資料です。十川満州開拓団の資料の中には、戦後に元団員が満州での暮らしや収容所生活、引き揚げの様子などを描いた水彩画や油絵が残り、開拓団の歴史を記録した貴重な歴史資料として注目されています。

油絵や水彩画など額に入った資料には、ホコリが付着し、カビ痕が額の表面に見られました。カビが発生した原因は、（１）高温多湿な環境で保管していたこと（２）資料劣化の温床となるチリやホコリの多い環境で保管していたことが推測されます。



具体的な対策法

額の汚れやカビは、市販の消毒用エタノールでしめらせた柔らかい布もしくは綿棒で拭き取って除去しましょう。

また、カビは湿度６５％以上で発育します。高温多湿な環境での保管は避けてください。また、チリやホコリは紙や絵の具などへの虫害の温床になります。チリやホコリなど汚染物質がたまり、湿気が増すとカビが発生し、カビを餌に虫も発生します。資料の回りは定期的に清掃して、虫やカビを発生させない環境をつくりましょう。これらは絵画資料だけでなく、紙資料全般に言えることです。

（４）虫害と防虫剤

紙資料に甚大な被害を与える虫として、東日本に多いフルホンシバンムシ（体長約３㎜）と西日本に多いザウテルシバンムシ（同約２．５㎜）が上げられます。濃赤褐色の体のシバンムシ類は、書籍や古文書、掛軸などの表面に直径約 1 ㎜の円い虫孔を穿ち、そこからトンネル状に貫通食害します。体長約 10 ㎜、翅がなく、全身銀色の鱗毛で覆われるヤマトシミも紙資料を好む虫で、紙の表面をなめるように食害します。ヒメカツオブシムシ（１．８～３．２㎜）は書物の皮表紙や羊皮紙を好みます。雑食のクロゴキブリも文化財に被害を与える虫で、特に洋紙への被害も多い昆虫です。食害だけでなく、糞などで紙資料にシミができることもあります。

湿度環境や資料の回りの清掃以外に、資料を保管する木箱や保存箱に防虫剤を入れて虫害を防ぐ方法がありますが、防虫剤は資料の材質によって用途が異なっています（一覧表参照）。定期的に交換し、違う種類の混用は避けてください。虫菌害や防虫剤についての詳細は、公益財団法人「文化財虫菌害研究所」（東京）のホームページ（http://www.bunchuken.or.jp/）を参照ください。

防虫剤一覧表

薬剤	殺虫効果	防虫効果	殺菌効果	防カビ効果	材質への影響
DDVP（ジクロルボス）	○	○	×	×	銀・銅などの金属にサビ、樹脂を軟化。一部のプラスチックを変形。
エンペントリン	△	○	×	×	銅製品は変色。
パラジクロロベンゼン	△	○	×	×	プラスチックや樹脂を軟化、樟脳と同時に使用すると、混融して汚損の原因になる。
ナフタリン	×	○	×	×	樹脂によっては軟化、資料へ再結晶することもある。
樟脳	×	○	×	×	パラジクロロベンゼンと同時に使用すると、混融して汚損の原因になる。

コラム３　役場文書と忠霊塔

歴史資料は、私文書と公文書に分けることができます。ここでは、代表的な公文書である役場文書に含まれる戦争資料について述べたいと思います。

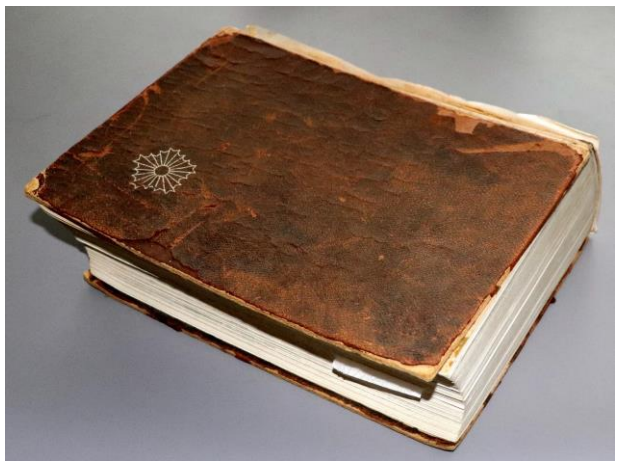
土佐市立市民図書館に、北原村役場資料が所蔵されています。北原村は、１９５４年に廃止され、現在は土佐市の一部となっています。この資料は、村役場が作成した多くの公文書を集成したもので、ここに貴重な戦争資料である忠霊塔建設に関する資料が含まれています。

忠霊塔は、戦争で亡くなった兵士たちを慰霊・顕彰するために建てられた巨大な合葬墓です。１９４５年９月に完成した同村の忠霊塔は、現在もそのままの姿で立っています。忠霊塔は全国的に見られますが、その建設過程などについてはよく分かっていません。この資料によって、北原村での建設の様子が明らかとなりました。同時に、それを指導した国などの動きについても知ることができました。

役場文書の中には、そこで作成された文書と一緒に、県や国の機関（陸海軍や省庁など）から送られてきた文書も綴られています。つまり、地域に伝わる公文書からは、地域に関する情報だけではなく、日本全体の歴史に関する知見を得ることもできるのです。

兵士個人が残した資料の中にも、ほとんどの場合、国や軍が作成した文書が含まれています。戦争資料を丁寧に読み解いていくことによって、個人や地域、国の動向などについて様々なことを知ることができるのです。（小幡尚）

コラム４　書籍資料の重要性



一般に、史料（歴史資料）と聞いて最初に思い浮かべるのは、古文書など「人によって書かれたもの」だと思います。活字による印刷物や、「本」を思い浮かべる人はほとんどいないでしょう。しかし、書籍が貴重な史料でないとは限らないのです。

２０１８年３月の戦争資料保存ネットワーク定例会に、会員の恒石節子さんが亡父の遺品である『関東局警察遺芳』（関東局内南満州警察協会、1938 年）という厚い書籍を持ってきてくれました＝写真。

「関東」とは、１９０５年から日本が中国より租借していた地、「関東州」のことです。同書は、関東州の治安維持を担っていた警察の職員とその活動を、多くの写真を用いて紹介したものです。収められた写真は１９３７年１０月に撮影されたもので、警察官たちのいろいろな業務の様子や、関東州各地の風物が写っています。

調べてみると、この本は「失われた書籍」でした。関東局の全警察官に配布されたのですが、終戦の際にその全てが失われ、今日では国内のどの図書館にも所蔵されていないのです。つまり、失われたと思われていた書籍が保存ネットワークによって「発見」されたのです。

このように、書籍という形態のものでも、それが歴史的価値の高い史料である可能性は十分にあるのです。ご自宅などに、古くから伝えられている「本」がある場合、仮に「貴重そうに見えない」場合でも、捨ててしまう前に保存ネットワークまでぜひご一報ください。

（小幡尚）

コラム５　雑誌類の整理

我が家には、江戸時代に香美郡の村で庄屋を務めた先祖代々の資料群が残されています。意外と多いと感じた物は紙類です。手紙や葉書、写真、古文書等であり、内容を確認し始めると当時の家族の生活が偲ばれると共に、その時代背景が読み取れます。そうしていると、簡単に捨てがたいと思う物が出てきます。紙であるために時代とともに劣化しているものもありました。

その様な時に高知戦争資料保存ネットワークから声を掛けられ、紙資料を撮影して画像データ化し、伝えていく方法を教えてもらいました。月１回の定例会では色々な情報を聞くことができ、その時代をより身近に感じることができました。２０１７年は明治維新１５０年でしたが、祖父や曽祖父の時代である明治は遠い昔ではない様に思えてきました。

私が興味を持った資料の一つが昭和３（１９２８）年の雑誌『サンデー毎日』です＝写真。その中に、帝国議会第５４議会解散の日（昭和３年１月２１日）に詔書を奉読する衆議院議長で、普通選挙運動を展開した親族・森田茂の写真がありました。解散後の第１６回衆議院議員総選挙は初の普通選挙が実施された。当選した議員名鑑ページには浜口雄幸（昭和４年７月より首相）、中谷貞頼（現衆院議員・中谷元氏の祖父）、小泉又次郎（小泉純一郎元首相の祖父）、鳩山一郎（鳩山由紀夫元首相の祖父）、片岡直温・森田茂（両名は高知県出身だが、選挙区は京都府第一区）らの写真が掲載されています＝写真。初の普通選挙の時代背景が読み取れます。

週刊誌『サンデー毎日』は大正１１（１９２２）年の創刊で全国に流通した雑誌ですが、本県出身の政治家たちの動向も伝える地域資料でもあります。文字だけでなく、多くの写真で当時の世相や出来事、地域の様子を伝えている視覚的な資料ですが、書籍以上に紙の劣化が進みやすいという問題点もあります。写真撮影後、雑誌は中性紙の封筒に入れて保管していますが、画像データにすることで雑誌を傷めることなく、いつでもパソコン上などで見ることのできる資料になっています。

現在、私は家の資料整理に携わったのをきっかけに、さまざま歴史資料を次世代の人に有効活用して頂きたいと思い、保存ネットワークの活動に参加しています。　　（森田拓男）

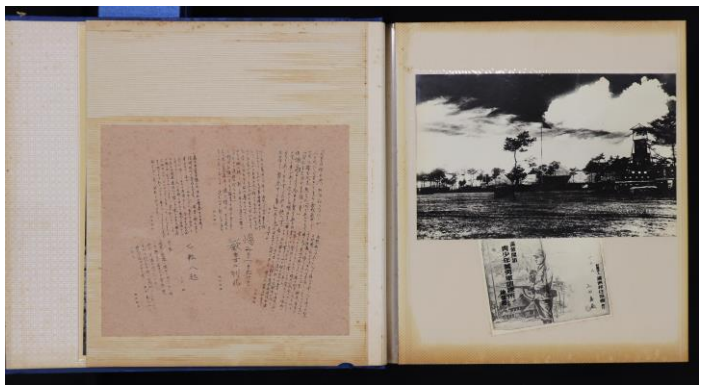
コラム６　写真集の整理

２０１８年１０月に父の三回忌を終えた後で、古くなった青い表紙の分厚い写真集が残っていることを知りました。私は、全く初めて見る写真集でした＝写真。

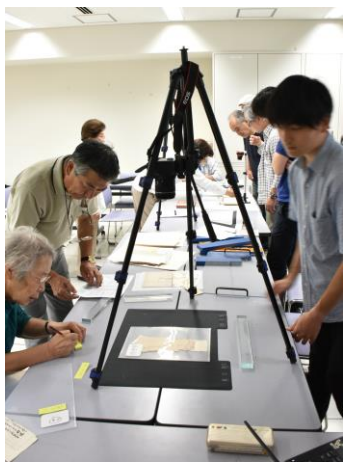
最初のページを開けると「昭和 14 年〈第 2 次〉満蒙開拓青少年義勇軍　大和鎮青年義勇隊開拓団　第三中隊〈中隊写真集〉」と書かれていました。写真集の中には、若い少年たちの訓練所での生活や訓練の様子などを写した写真が３７０枚以上ありました。この写真集は戦後生き残った開拓団の OB 会「拓友会」のメンバーが会員から写真を集め、編集してアルバムにまとめたもので、４６部ほどしか制作されていない、私家版の資料でした。

この写真集をどうしたらよいのか、出来る事なら有効に生かしたいと考えて、「平和資料館草の家」に一時預けていました。そして、偶然知人から高知戦争資料保存ネットワークを紹介されたので、何も考えずに定例会の日に写真集を持参しました。そこには十数人の人たちが何か作業をしており、県下の家庭に残されていた戦争資料等を後世に残し伝えていくために、資料をデータ化する作業をしていることを知りました。そこで、戦後の混乱で開拓団や義勇軍の歴史資料は散逸したものが多く、この写真集が非常に貴重なものであることも教えてもらいました。別に所蔵していた写真も含めてすべて撮影してデータ化し、資料目録も作っていただきました。

私は、写真集をきっかけに資料の整理に関わらせていただき、戦争について関心を持ちました。戦争は過去のことではなくて、悲惨な戦争で大勢の犠牲者がいたことは、絶対に忘れてはいけないと強く思いました。その戦争を伝えるためには、残されている資料をきちんと後世に残して行くことが重要であることを知りました。　（織田千代子）



４、歴史資料の整理



地域や家庭に残る歴史資料を後世に伝えるには、保管するだけでなく、その資料がどのようなもので、誰によって作られ、どのような経緯で残されたかを記録し、当時の戦争を知らない後世の人たちが理解できる形で「整理」して残すことが大切です。

そのために行う作業が「資料整理」です。高知戦争資料保存ネットワークで行っている整理作業は、（１） 資料の概略を知ることができる「資料目録の作成」（２）資料の現在の状態を記録してデータ化するための「写真撮影」を同時に行う形で進められています。また、（３）資料のクリーニング方法や（４）虫害を防ぐ方法も覚えておいてください。

まず、鉛筆、消しゴム、薄用紙、メジャー・物差し、付せん、カラートーン、文鎮（透明）、デジタルカメラ、三脚、文鎮（透明）を用意して整理の準備をします。インク漏れなどで紙資料に着色する可能性があるペン類の使用はできるだけ避け、鉛筆で資料情報を目録に記載してください。

（１）資料目録の作成

目録作成の目的は、①一覧表を見ることでその資料の概略が分かり、②目的の資料を探すときに簡単に探せるようにすることです。

資料番号	タイトル		高知戦争資料保存ネットワーク（09052728852）
KK1	山崎久資料	調査者　楠瀬慶太	作成年月日　2016年7月6日
年代域	昭和14年～昭和20年	資料群の作成年月日	不明
作成者名称	山崎久（1918年6月14日～2011年4月27日）	サイズ	
資料保管先	横浜市の長女が保管		
記録資料伝来	山崎久氏は復員後、高知県警に復帰。県内を転々とするが、定年後に建てた高知市朝倉丙の家に従軍時の資料を保管していた。山崎久氏、妻の敦子氏が死去後、横浜市在住の長女が高知市の実家を整理する過程で、おたき上げを検討していたが、保存ネットワークが重要資料として一部を寄贈いただいた。調査後に資料の写真・目録のDVDは倉谷氏にも渡し保管してもらった		
作成者経歴（長女から聞き取り）			
山崎久は大正7年6月14日、須崎市浦ノ内鳴無の農家、山崎左吉の次男（4人きょうだい。長女、次女は若くして病気で亡くなる）として生まれた。18歳ぐらいで警察に入ったがすぐに徴兵された。昭和14年5月3日に高知市朝倉の44連隊に留守隊に応召。昭和15年5月30日に宇品港を出港し、6月8日に蕪湖到着し、支那事変に従軍（上海周辺）。輸送船警備を経て水上勤務第104中隊、昭和16年8月5日から騎兵第55連隊に転属、8月12日には南京を出発して19日に大阪上陸。20日に召集解除され帰高して妻敦子氏（1924年7月7日～2014年12月10日）と結婚。昭和19年5月1日に長女が生まれる。昭和20年1月に44連隊に再入隊（広島にも行っている、敦子は生まれたばかりの長女を連れて兵営に会いにいった）。その後、昭和20年1月9日に歩兵第44連隊補充隊に応召。1月21日に博多を出て釜山を経て2月8日に福建省閩安鎮に上陸して警備勤務。独立625大隊第二中隊で集号作戦に参加。7月17日～8月13日に松江付近で陣地構築・警備。終戦後は寧波、上海などを経由して1946年1月に復員。終戦後は高知県警に復帰し、警備畑を歩む。1974年の繁藤災害では捜索隊の隊長を務める。警備部長（警視正）で退職。		
範囲・内容	山崎久が持ち帰った支那事変の写真、賞勲局からの賞状・陸軍記章、戦時期に家族から送られた手紙(軍事郵便)集、繁藤災害の写真など56点		
資料の保管状況	山崎家で箱などに入れて保管していた。紙やけはあるが、虫食いはなし。資料の保存状態は良い		
法的位置づけ	長女が保管		
次代の保管者・保管先	不明		
利用条件	公開可		
データ	○　長女からの聞き取り音声データもあり		
出版情報	一部出版物あり（詳細版参照）		
関連文献	『高知で編成された郷土部隊《案》』『高知で編成された郷土部隊小史』（いずれも自費出版）		

資料目録概要版

目録作成は、資料保管者への聞き取りや資料（軍隊手帳など）の読み取りによって、資料の概要を記録する作業です。ネットワークでは、東京大学文書館の書式を参考に簡易版、概要版、詳細版の３つの書式の目録カードを使用しています。

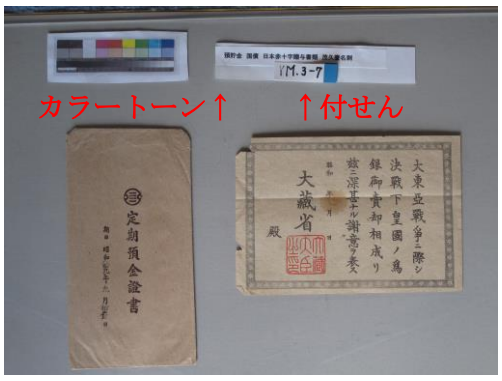
簡易版は、資料名や点数、年代、保管先など最低限の情報を記したもの。概要版は、資料作成者の戦歴（来歴）や資料の概要、保存状態などを記したもの。詳細版は、１点１点の資料の情報を細かに記したものと、段階をおって詳しく資料の情報が記録できる形にしています。資料の重要度や整理時間に応じて、３つの書式を使い分けて目録を作成しています。簡易版は短時間で作成できますが、概要版や詳細版の作成には詳細な聞き取りや資料の読み込みが必要となります

目録の作り方は、毎月のネットワーク定例会でも学ぶことができます。また、目録の書式（ワード形式）や凡例は、ネットワーク事務局で配布・提供していますので、使用されたい方はネットワーク事務局までご連絡ください（「高知戦争資料保存ネットワーク」のフェイスブックページから目録【エクセル】をダウンロードすることもできます)。

（２）写真撮影

今後さらなる紙・インクの劣化や廃棄等が予想される資料を写真（デジタルカメラ）で撮影することでデータ化して残し、歴史資料として利用できるものにする作業も重要です。資料が写真で確認できるため、何度も手で触れることによる劣化（「物理的要因」）を防ぐ効果もあります。ネットワークでは、NPO 法人「宮城歴史資料保全ネットワーク」の文書撮影マニュアルをもとに作業を行っています。

使用するデジタルカメラは、一眼レフカメラのような高価なものでなくても、家庭にあるハンディのカメラで文字判読が可能な画質の画像が撮影できます。ただし、撮影時には撮影する画質を最大（fine など）になるよう調整してください。画質が低いと小さな文字が見えにくくなることがあります。三脚があると、写真の手ぶれを防止でき、撮影時の移動も少なくて便利です。



写真を撮影する際には、整理者が付けた資料群の整理番号を付せんに記し、カラートーンや物差しなどとともに資料のそばに置きます（付せんやカラートーンが資料にかぶさらないように）。資料は水平な台の上などに縦横ともまっすぐに置き、資料全体が写るよう真上から撮影します。資料が大きく長い場合は、何回かに分けて分割して写真におさめます。資料が折れたり、浮き上がったりしている場合は透明な文鎮で資料を押さえて撮影しても大丈夫です。紙の折り目などで見にくい文字がある際には、全体を写した後にその箇所をアップで撮影します。

写真撮影時には、資料を選ぶのでなく保管されている全ての資料を撮影します。時間と労力の掛かる作業ですが、資料を良い状態で後世に残す重要な作業です。資料の写真撮影方法は、毎月のネットワーク定例会でも学ぶことができます。

（３）資料のクリーニング

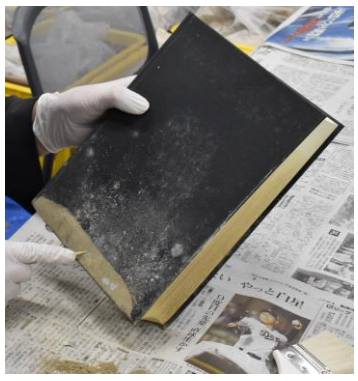
歴史資料を良い状態で後世に伝えるためには、資料からホコリなどの汚れを取り払い、清浄な状態に保つ必要があります。特に、雨や水に濡れた資料（水損）や虫に食べられた資料（虫害）は、今後も被害や劣化を防ぐためにクリーニング作業が欠かせません。また、撮影・整理前に資料をクリーニングしておくことも大切です。

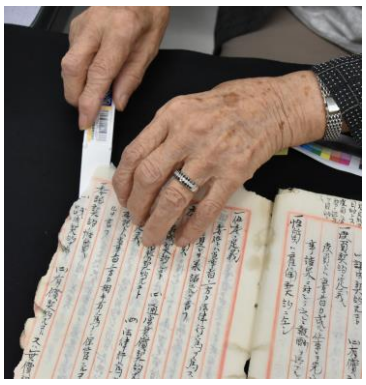
クリーニング用の道具は、ブラシの付いた羽毛、割り箸の先をカッターなどでとがらせたもの、ピンセット、ヘラ（竹製、プラスチック製）などで、ホームセンターなどで簡単に買いそろえることができます。ここでは、保存ネットワークなどが２０１８年にクリーニングを行った愛媛県や高知県の資料をもとに作業の手順

を紹介します。

乾燥　水損した直後の水に濡れた資料は、扇風機や乾燥機などでまず乾かす必要があります。ひどいものは冷凍庫に入れて水分を取る作業を行う場合もあります。十分に乾燥した後にクリーニング作業を行います。東京文化財研究所の HP に資料が水損した際の具体的対処法が公開されていますので、参考にしてください。
（https://www.tobunken.go.jp/japanese/rescue/rescue_info.html）

クリーニング　まず、羽毛を使って資料表面のホコリ、泥、虫の糞などを取り払っていきます。紙も被害を受けて劣化しているので、資料を傷つけないように慎重に作業してください。汚れがこびりついて取りにくいものは、割り箸の先やピンセットを使って取り除きます。水損した資料の多くは、紙同士が乾燥して張り付いています。張り付いた紙を、ヘラを紙と紙の間に入れて慎重に１枚１枚はがしていきます。はがした後も紙の汚れを羽毛などで取





ってください。時間の掛かる地道な作業ですが、資料の破損や虫害を防ぐ重要な作業です。保存ネットワークでは、資料のクリーニングについても助言をしていますので、お声をおかけください。

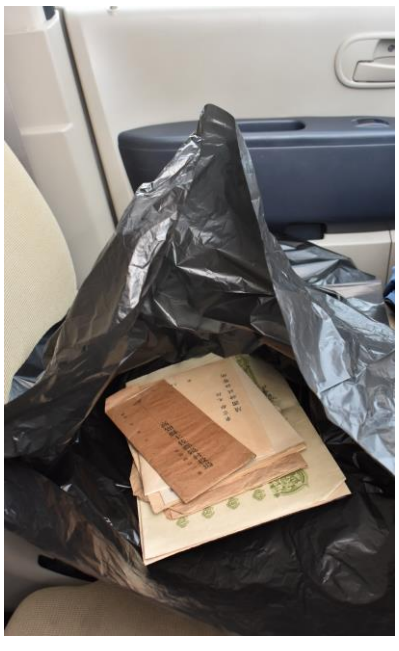
（４）虫害を防ぐ方法

日本では、古来より資料類を天日干しにして虫を防除する「虫干し」が行われてきました。一定効果的な方法ですが、熱や光を嫌う虫が資料の中に隠れてしまって完全な防除はできません。

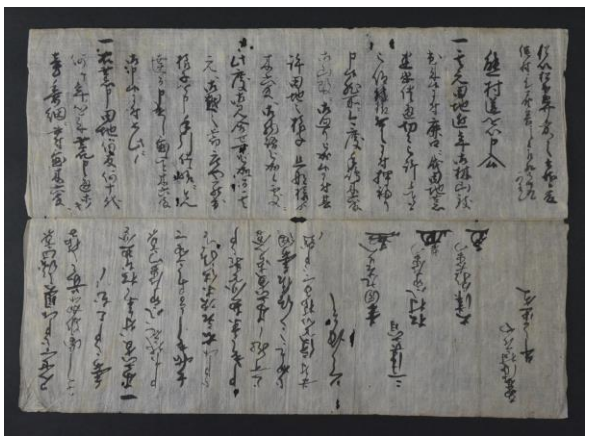
効果的な道具として、資料を透明な袋に入れて特殊な薬剤で無酸素状態にして虫を殺す「モルデナイベ」などのキットがあります。

株式会社「資料保存機材」の HP より引用

他にも、家庭で簡単にできる方法として、黒いビニール袋に資料を入れて口を閉じ、日中車の助手席など光の当たりやすい場所に数時間置いて、熱で虫を殺す方法があります。この方法だと、資料の中の虫も殺すことができるので効果的です。



コラム７　土佐国の浦に伝わる近世文書の整理－幡多郡大津村上岡家文書－



土佐は海の国と言われます。 長い海岸線が続き、人々は海から多くの恩恵を得て暮らしてきました。しかし、恵みの海は時として、人々に襲いかかり、多くの被害をもたらします。このような海と対峙してきた土佐の浦々は、近世においては８０以上を数えますが、そこに残された史料は多くはありません。

高知戦争資料保存ネットワークでは、これまで戦争に関わる資料を中心に整理などを行って参りましたが、活動を進めていく中で、それ以外の資料についてのご相談を受けることも増えてきました。その内の一つとして、２０１８年度から整理をはじめました幡多郡大津村（現土佐清水市）の上岡（かみおか）家文書があります。先にも述べましたとおり、近世の浦に関わる史料の多くは現在では伝わっておらず、貴重な史料群です。上岡家は、近世の初期から大津村の浦と郷の庄屋を兼帯していたとされ、その職務や家に関わる史料が残されています。近世の土佐において、浦は郷（村）とは行政支配で区分されており、浦には漁民のみならず、商人や職人、また廻船をもって領内外に商売を営む者も居住し、在町的な性格をもっていました。現在のような交通網が整備されていない、近世社会において浦は外部との接点となる重要な拠点でした。本史料群から、近世の土佐国における浦の人々の暮らしを垣間見ることができます。

上岡家文書の整理は、まだ道半ばですが、保存ネットワークでは、引き続き近世史料の整理などを行い、高知県の歴史資料の保全に務めていきたいと考えております。みなさまの身近に歴史資料でお困りのことがございましたら、お気軽にご連絡ください。　（望月良親）

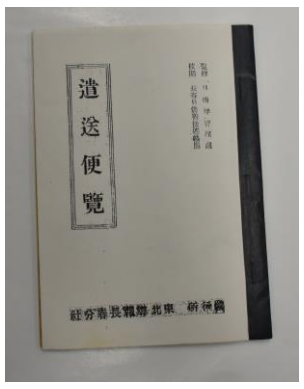
コラム８　かけがえのない資料　―幡多郡大津村上岡家文書―

幡多郡大津村（現土佐清水市大津）の庄屋・上岡家は、遠い祖先に当たります。本家の方（県外在住）が大切に保管してきた庄屋文書、約９０点を２０１８年にお預かりしました。ただ、書かれた文字を読もうにも、歴史の素人である筆者には歯が立ちません。保存ネットワークによる解読と目録作成によって少しずつ、近世の村の様子が分かってきました。

地域に眠る資料の散佚（さんいつ）は、今後加速するのではないでしょうか。特に近世資料は、「くずし字」が大きな壁となります。くずし字をすらすら読める人物が身近に存在し、かつ解読を気軽に依頼できる、などという環境は、むしろまれです。書かれた内容の見当がつかないか

ら、その資料のおおまかな歴史的価値も判断しようがない。資料廃棄に至る一因ではないでしょうか。複写や翻刻もなされず廃棄された場合、書かれた内容は永久に分からなくなります。これはその一族、地域だけでなく、県民全体、さらには将来世代にとっての損失ではないでしょうか。（福田仁）

コラム９　満州の資料収集に関わって



私の過去の資料に対する強い執着は１６歳に始まりました。それまで生きてきた証のような私にとって貴重な資料、写真類、身の回りのものは全て廃棄することになったのです。私は昭和２１年（１９４６）当時の満州国（中国東北部）の首都新京（現長春）に住んでいました。敗戦から１年が経過、やっと日本人は本国に帰国できることになったのですが、『遣送便覧』（引揚げの厳しい制限が書かれている手引書）が配布され、最低限の衣類や食糧、ヤカン、鍋、飯盒（さら）、水筒くらいしか持ち帰れなかったのです＝写真。

高知に住むようになって友人と話す中で、１９３０年から１９４５年までの１５年間の私の生きた証となる写真は１枚もないことを、まるで私の１５歳までの姿を消されているような喪失感を覚えたことでした。それからは母の実家や親戚の人たちから、もらえるものは譲ってもらい、もらえないものは複製して、とにかく写真を執念のように集めました。５８歳で仕事を退職してからは、満洲時代の同窓会や父の勤め先だった団体の会合など機会があると出掛けて、写真だけでなく書籍や資料等の収集を始めました。

その後、１９９８年に始めた満州からの引揚者の集いや、引揚体験者の聞き取りなど、折にふれて資料保存の大切さを話し、提供や貸与を呼びかけ、複製したりもしてきました。ただ残念なのは、私と同様満州からの引揚者は、皆ほとんど持ち帰れなかったので、始めのうちは困難でした。それでも皆と話し合い、私の体験のように、日本に住んでいた身内の人に尋ねてみるとか、一人でも多くの人に声をかけてみるなど、色々工夫してもらいました。新聞記事も大いに役立ちました。資料があるとの連絡があるとわくわくしながら訪問して収集することもありました。何も専門的に学んだわけではありませんが、自分の悔しい思いをした体験から自己流で収集をしてきました。その間随分多くの方にご協力をいただきました。

おかげ様で書籍、雑誌などは高知大学の図書館（崎山文庫）で、布・紙類の資料は県立歴史民俗資料館で保存、活用していただけるようになりました。資料類は高知戦争資料保存ネットワークで撮影し、画像データ化されています。これらが若い方たちに満州の歴史の一部でも知っていただけるきっかけになればうれしく思います。（崎山ひろみ）

コラム 10　展示による資料の活用

安芸郡芸西村には、１９８５年に文化資料館が建てられました。この資料館には民具や庶民の生活用品、坂本龍馬と活動した人物、庄屋や村に貢献した人物、日中戦争や太平洋戦争中の庶民や兵士の遺品等が収蔵されています。

これらの資料の中には、戦争で多くの仲間の兵士たちの戦死に遭遇した地元の門脇謙久氏が「生き残った自分だから村の役に立ちたい。村の歴史を残そう」と家屋の建て替えを聞けば、訪ねて行き集めてきた膨大な資料群が含まれています。これらは長く体系的な整理が行われていませんでしたが、これを職員の堀田幸生氏が４年掛かりで整理し、展示までこぎつけました。２０１７年８月、資料館で戦争資料展が行われ、千人針や出征兵士のための日章旗、軍隊手帳、水筒、戦死通知当時の教科書、日用品の配給通帳、アルバムなどが展示されました＝写真。そして２０１８年には、８月の戦争展と同時に村の慰霊祭の会場でも展示が試みられました。慰霊祭に参加者の中には、「家にも資料があったように思う」と後日資料館へ持参して下さった方もいました。

展示を通して館収蔵の資料に加え、今まで出てこなかった資料が知られるきっかけになりました。戦争を知らない世代が多くなった今、当時の資料を見ることで歴史の曲がり角を考えて欲しいと思います。

（恒石節子）

５、まとめ―今からできる保存と整理

劣化する紙資料をできるだけ良い状態で残すため、様々な整理保存の方法を紹介してきました。これらをまとめて、今からでも皆さんの家庭でできる資料の保存と整理の要点を紹介します。これは第３章で紹介し簿冊や写真、絵画以外のハガキや封書、日記、軍隊手帳などの近現代資料のほか、江戸時代以前の資料でも同様に行うことができます。

●資料目録の作成や写真撮影を行って資料を整理する

●湿気や温度が極端な場所に資料を置かない

●資料の保管・展示場所の清掃を定期的に行い、ホコリに伴う虫菌害を防ぐ

●資料保存に適した中性紙の保存箱、封筒、包み紙などに移し替える

中でも簡単にできるのが、保存箱を利用した資料保存方法です。保存箱には①光の遮断②チリやホコリの遮断③害虫の侵入の遮断④温度変化を緩和⑤大気汚染物質の侵入の緩和⑥落下による損傷の軽減⑦火災・煙・洪水の被害から保護するなど保存の上での長所があります。紙資料に影響を与える光や害虫の侵入を遮断でき、効果的です。一方で、保存箱は材質によって防水、防虫、通気性などの面で長所・短所があります。木箱や中性紙箱は資料保存の点で長所が多く、ぜひ活用してほしい保存用具です。また、保存箱を置く場所については、「水濡れ対策」として、「風の通り道」の確保のために、箱を直接床に置かず、 すのこなどを敷いた上に置くとよいでしょう。

これまで見てきたように歴史資料の整理や保存は、皆さんのご家庭でもそれほど手間や経費をかけずに行うことができます。地域や家庭にある資料は、戦争資料に限らず全て地域の歴史を伝える貴重な資料であり、できるだけ地域で持ち続けてもらいたい文化財です。時には、地域の歴史を伝える地域資源にもなります。

整理や保存に一手間をかけることで、資料の劣化を防いで、後世に残し、伝えることができます。皆さんも身近な所から歴史資料を残し、伝えるための行動を起こしてみませんか。

画像提供：県立高知城歴史博物館

保存箱の長所・短所

	防水	防虫	通気性	耐火	積載時の容器の強度	入手しやすさ
木箱	△	△	△	△	○	×
中性紙箱	×	△	○	×	△	△
段ボール箱	×	△	○	×	×	○
プラスチック衣装ケース	○	△	×	×	○	○

冊子テンプレート
B5 1P（182mm × 257mm ）

主な保存用具の購入先

中性紙の封筒や保存箱、薄用紙など保存用具の購入先として以下のような県外の会社があり、インターネットなどで購入ができます。値段は中性紙封筒が20 枚入りで千円～２千円、中性紙保存箱は２千～３千円です。入手が難しい場合は、保存ネットワークにご相談ください。

●特殊紙製紙商事株式会社（東京都）
電話：０３－３２７３－８５１６
ＨＰ：http://www.tokushu-papertrade.jp/netshop/index.html
●株式会社資料保存器材（東京都）
電話：０３－５９７６－５４６１
ＨＰ：http://www.hozon.co.jp/
●フォト・ギャラリー・インターナショナル（東京都）
電話：０３－５１１４－７９３５
ＨＰ：https://www.pgi.ac/cart/
●コンサベーション・バイ・デザイン（東京都）
電話：０３－５４２１－２０６１
ＨＰ：http://www.cxd-japan.com/index.html

【参考文献】

大林賢太郎 2010『写真保存の実務』岩田書院
小幡尚 2010「高知県高岡郡北原村における戦没者慰霊」『海南史学』48 号
京都造形芸術大学編 2002『保存科学入門』角川学芸出版
楠瀬慶太 2016「高知戦争資料保存ネットワークの設立について」『地方史研究』383 号
楠瀬慶太 2019「高知県における近現代資料の保存」『西南歴史文化談叢よど』20 号
高知ミモザの会 2009『戦地から土佐への手紙』
宍倉佐敏 2006『和紙の歴史』財団法人印刷朝陽会
鈴木英治 1993『紙の劣化と資料保存』日本図書館協会
地方史研究協議会編 2009『歴史資料の保存と地方史研究』岩田書院
東京文化財研究所編 2004『文化財害虫事典』クバプロ
三浦定俊ほか 2004『文化財保存環境学』朝倉書店
山野勝次 2014「文化財の材質からみた主要害虫」『文化財の虫菌害』67 号

なお本冊子は、２０１８年度大成建設自然・歴史環境基金の助成研究「高知県における近現代資料のアーカイブ化－住民による地域資料保存の取り組み」の成果の一部です。

高知の歴史資料を残す・伝える
－紙資料保存の手引き－

編集：高知戦争資料保存ネットワーク
（秋山博子、小幡尚、大西正祐、大原純一、織田千代子、
楠瀬慶太、崎山ひろみ、近森啓二、出原恵三、恒石節子、
松本瑛子、望月良親、森田拓男、福田仁、依光浩美）
E-mail:kusukei31@yahoo.co.jp
連絡先:090-5272-8852

協力：田井東浩平（高知県立高知城歴史博物館）

発行者：高知大学小幡尚研究室
（高知県高知市曙町２－５－１）
発行日：令和元年１２月２５日

印刷・製本： ラクスル印刷（東京都品川区）

【表紙写真】山崎久資料、森田家文書、上岡家文書、
十川万山開拓団資料、山中茂久壱資料

【裏表紙写真】高知戦争資料保存ネットワーク定例会の様子